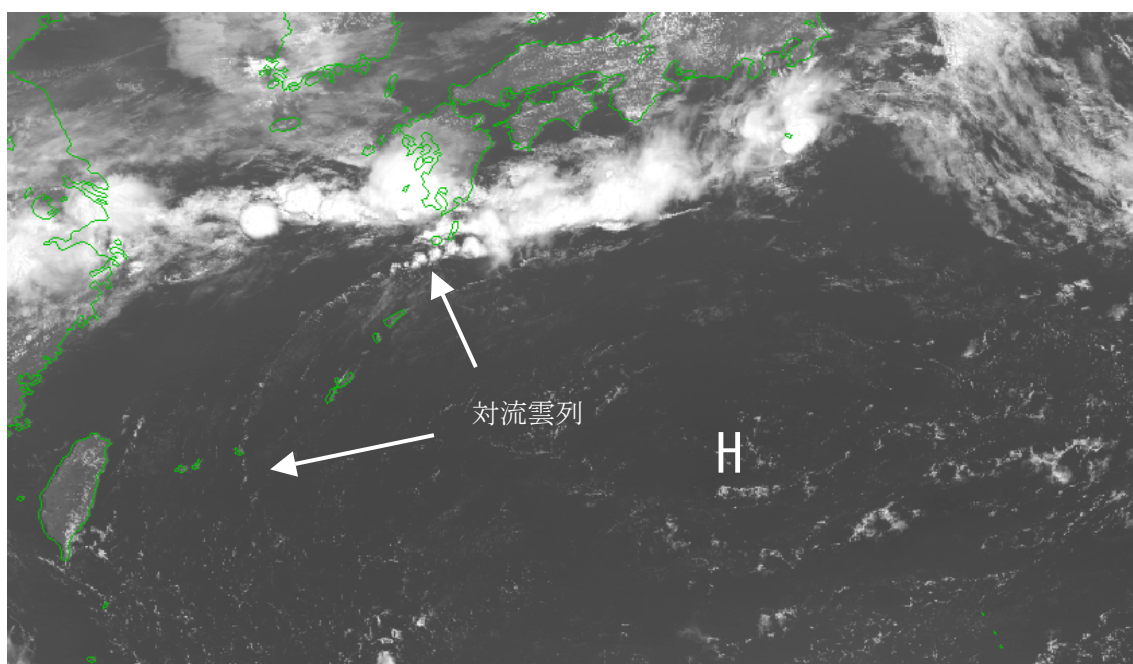


今月の気象衛星画像 (2006年6月)



可視画像 (2006年6月27日12時)

太平洋高気圧の縁辺で発生した対流雲列

梅雨期間も後半に入ると太平洋高気圧の西への張り出しが強まり、西日本の梅雨前線は九州付近まで北上して沖縄地方は梅雨明けとなる。今回は、高気圧周辺の晴天域とその縁辺に沿って発生した対流雲列が可視画像で明瞭に捉えられたので、ここで紹介する。

図は6月27日12時の可視画像である。日本の南海上に高気圧があって、その北側の本州沿岸には梅雨前線に対応する雲バンドが東西に伸びて、この雲バンドの所々で活発な積乱雲が見られる。地上天気図では図に示したH印付近に高気圧の中心があって、この高気圧は西に張り出し東シナ海方面まで勢力を広げている。画像から分かるように高気圧圏内では晴天域に覆われ、この晴天域は東西に伸び、西側では華中沿岸まで広がっている。また、南西諸島ではこの晴天域に覆われ晴となっている。

一方、沖縄の西海上は高気圧の縁辺に位置し、南東風と南西風の合流しやすい場となり、宮古島の南から沖縄の西を通り屋久島付近まで矢印で示す対流雲がライン状に形成され対流雲列となり、その長さは約1000kmに達している。この対流雲列は高気圧の縁辺に沿って発生したもので、先端付近では発達した積乱雲となっている。

(気象衛星センター)